



## さいたま市障害者協議会 第11回総会



日付：平成26年6月10日(火)14時～ 場所：大宮ふれあい福祉センター



さいたま市議会議員 土橋貞夫様から  
ごあいさつをいただきました

発足当初の協議会を振り返ってみると、新しい一歩を踏み出す舞台として、十六団体が活気のある活動に取り組んでいました。

十一年目の総会に当たって感じたことは、確かに加盟団体が減少していること、会員が高齢化していることはありますが、ひとつひとつの事業は各団体の障害を捉えた、迫力のあるもの、楽しいもの、役に立つものであったということです。

十年という年月を無駄にすること無く、次の課題に向かってなすべきことを捉え、みなさんと共に進んで行きたいと願っています。

**「いま」を捉えて  
できることを**

会長 浅輪田鶴子

# 新役員として 正面から向きあう

副会長 中野 勇

この度、障害者協議会三役に就任した(特)さいたま市視覚障害者福祉協会代表の中野勇です。

私は、11年前にさいたま市障害者協議会が発足した時から理事を務めて参りました。当時は、19団体が加盟しており、時代と共に4団体が活動を停止し脱会しました。

障害者協議会は、身体・知的・精神の三障害が参加している団体です。障害者協議会は、社会参加推進事業、家族教室、生活訓練をはじめ、ふれあいスポーツ、障害者週間、市民の集い、障害者相談事業が行われ、各事業ごとに実行委員会が開催され、理事の皆様も実行委員として活動されております。

視覚障害者の置かれている現状を目の当たりにし、いくら何でも障害者の問題に正面から向き合っていければ良いのかと思います。



# 総会を終えて…

## 議長からひとこと

### 「この会の進路を決める場になりましたが、今回が三回目という

私(平林)は今回も議長を務めることになりましたが、今回が三回目という

み、何の波乱もなく総会が終わってくれれば、年に一回の大きな節目を「無事通過」でホッとするのが正直なところです。

しかし「障害者協議会」を結成したこの意義を考えると、前向きな意見交換などがあまり出なかつた今回の総会を振り返ると、

「もっと有意義な場にするには出来なかつたろうか?」という議長としての役割について改めて考えさせられています。

そう考えるとき、加盟団体の一つとして前向きな提起が出来ない自分たちの活動にも反省点があることも思い知らされています。



自覚がなく、事務局に確認をしました。

やはり第九回総会から連続三回ということで、協議会の最高議決機関である総会議長の役割に対する自覚が足りなかつたことを、今更ながら反省させられている次第です。

そして、これを機会に「障害者協議会の総会」というものについても改めて考えてみました。

会の事務局や執行部、そして議長としては、議事日程通り順調に議事が進

日常の活動については、執行部と毎月の理事会で協議して進めていけば良い訳ですが、協議会として結集している意義について考え、その力を生かす方向について決めていけるのは、総会の場なのではないでしょうか。

今後の総会が、そういう論議が出来る場になればいいなと思わずにはいられません。

障害者(児)の生活と権利を守るさいたま市民の会 平林 彰

## 総会ってそうかい!

総会への準備は事務局を中心に役員が加わって進めます。

直前の理事会では、資料をもとに説明して内容の理解をお願いし、開催二日くらい前には、役員の分担の確認や資料の点検を行います。

当日は、役員は午前中から集まり、動ける人は会場の設定や来賓、役員席の下がりの貼り付け、横断幕の貼り付けなどあわただしい準備があります。

お楽しみは準備完了していただくお弁当です。おいしかったです!

綿密に準備をしたつもりでも、ハプニングは起こります。そんな時には、頭を寄せ合って四苦八苦!

総会が終わると何となく一息です。



## もっと楽しく もっと有効な ホームページを…

開いてみたくなるような、一言  
言いたくなるような、頼りになる  
ホームページに

さいたま市障害者協議会はホームページを開設してから10年になりますが、年度ごとに内容の更新はするものの、活用されているという手応えは感じられませんでした。何とかしなければということで、いま、ホームページリニューアルの準備をすすめています。



毎月の理事会でも話題になるのは、会員団体の高齢化、それに伴う加盟団体の減少。確かにそれもあるかも知れませんが、もっと活動的な、ブログ形式なものを、話題や写真などをリアルタイムでアップできるようにしたいと考えました。

少しでも多くの人に興味を持っていただき、加盟各団体も協議会も活性化され、そして、ノーマライゼーションの理念に繋がって行けるように願っています。

各団体で、ホームページに掲載してほしいことがあれば、事務局にご連絡ください。

内容にこだわるよりも、新しい動きに関心を持っていただけることが大事ですね。



## 障害者施策推進の 担い手として期待 さいたま市保健福祉局 福祉部長 志村 忠信

本年度副支部長に就任しました志村と申します。

皆様方には、日ごろから本市の障害者施策の推進につきまして、格別のご支援、ご理解を賜り、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

貴会におかれましては、設立以来、本市の障害者社会参加推進センターの運営団体として、障害者週間記念事業をはじめ、生活訓練や家族教室など、各種の障害者社会参加推進事業の受託団体として、積極的に取り組んでいただいていると伺っております。

併せて、障害者福祉の分野以外にも、

まちづくり、教育、防災など、市の各種施策の推進にご尽力をいただいておりますことに、心から敬意を表したいと存じます。

関係団体の皆様方には本市の障害者社会参加推進センターの運営団体として、また、本市の障害者福祉の担い手として、これまで以上のご協力をお願い申し上げます。

さて、今年度本市では、ノーマライゼーション条例に基づく施策を推進するための計画として、法定計画と一体的に取りまとめ策定した「さいたま市障害者総合支援計画」について、平

成二十七年からの三カ年に亘る次期計画策定のための見直しを行っているところでございます。

これまでの本計画の達成状況や課題を把握するとともに、市民の方々から幅広くご意見をお寄せいただきながら、次期計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

本市におきましても、引き続き障害者の方が地域で安心して暮らせるよう、障害者施策の推進を図ってまいりますので、皆様方のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

あうんの呼吸・インタビュー

# やさしくて頼もしい認定社会福祉士

社会福祉士事務所ろんぐ所長 長塩 礼子さん

何気なく広げた「福祉新聞」の紙面に、「認定社会福祉士誕生!」という記事を見つけました。

認定社会福祉士ってなんでしょう

どんな仕事をしているの

好奇心いっぱい、長塩礼子さんにインタビューをお願いしました。

インタビュー 浅輪田鶴子

## 認定社会福祉士って?

—認定社会福祉士っていうのは、どういう経過できたんですか。

長塩 社会福祉士っていうのはご存知ですか。その社会福祉士の中で、ある程度研修を積んで、研修は必ずいぶん前からあるんですけど、その研修、体験をきちんと積んで、認定社会福祉士となり、その上に上級社会福祉士を作ろうっていう考え方はすごく昔からあったんです。

—なるほど。  
長塩 じゃあ、認定社会福祉士っていうのは、どういう人になるんだっていうと、大学の先生なんかだと分野別こういう勉強をしたとか、大学院に行

ったということになりますけど、私達現場の人間、実践家は、そういうことではないんですね。

去年出来たのが認定社会福祉士で、五つの分野があるんですが、私はその中のどこに属するかというと、地域社会多文化分野ということですね。でも自分ではどんな分野にも属さないジェネリックソーシャルワーカーでありたいと思っています。

## 多文化っていろんな文化?

—多文化ってどういうことですか。

長塩 外国の人とか:

—ああ、そういうことですか。

長塩 地域分野にも捉われてない、何でも屋でありたい。

—対象が広がってやり易いっていうことですか。

長塩 そういうことではなくて、高齢とか、障害とか専門の社会福祉士ではなくて、分野にとらわれない、たとえばお医者さんでいうと町医者みたいな人が何でも相談に乗れるように、私が専門の社会福祉士につなげばいいと思



っています。

どこにも入れない人って、いるでしょう? —区分されるとどこからも外れちゃう人のこと?

長塩 そうそう、そういう人たちのことを一番やりたいなあと思って。 —そういう人たちが一番困っているから?

長塩 高齢は高齢で介護保険が出来る

とができる人もいますけど:

社会福祉士でなくてもできるし、だから、私はソーシャルワーカーとしてやりたいと思つたら分野は分けられなかったですね。  
—私も娘が知的障害ですから、多くの知的障害の人と接してきましたが、知的障害かどうかなんてわからない人がたくさんいましたね。  
今は発達障害と言う分野で分けることが出来る人もいますけど:

長塩 知的障害って決めつけなくたって、経験を積んでいけば生きられるっていう人もいるけど、経験積んだって障害が治るとかなくなるわけではないんですね。  
大きくなってから、私はどうしてこんなになうまくいかなんだらうって悩んだりしてね。  
やっぱり障害を認めてそれに合った対応をして環境を整えれば、自分に合った生き方が出来るんですよ。

## 子ども三人 孫五人です

—長塩さんは、結婚なさってるんですよ。

長塩 はい。

—お子さんは?

長塩 子ども三人、孫五人いますよ。

—へえ、お幾つですか?

長塩 孫がですか?

—いいえ、長塩さんがですよ。



長塩 えへへ、ご想像に任せます。

—お話を聞いていて、障害のある人と接する時、あつたかい心で優しく接することも大事だけど、障害のことを、根本的なところにあるものを分かっている人に接してもらうことが大切だなあと思いましたね。

長塩 そうでしょうね。

あつたかい気持ちで接することも、普通の気持ちで接することも大事ですけど、きちんとその人の障害を勉強して、きちんとその人に合った対応をすることは、すごく大切ですよ。発達障害だって一括りにはできないから…

いろんな人がいますね。その人に合った対応、その人に合ったやり方、その人のそういうところからくるんだというところがきちんと分かって対応するか、まあ、まあ…という対応をするの

かは違いますよね。

### 優しいだけでは務まらない

—いま社会福祉の分野、特に障害福祉の分野ではきちんと勉強をし、経験が積んだ職員というのは少なくなっているような気がするんです。

収入面でもそんなに優遇されているわけではないし、パート職員が増えていくような傾向がありますが、長塩さんはどう思われますか。

長塩 実はうちでもね、娘二人と息子がいるんです。上の娘は大学卒業して施設職員になったんですが、一般企業に就職した弟の初任給より経験が長い自分の給料のほうが低くて、それだけが原因ではないですが、がっかりしていました。

入所施設なんかでは、命に関わる仕事ですからね。優遇してあげてほしいですね。

給料で正当な評価を得られないっていうのは辛いですよ。優しいだけでは務まらないってことですね。

長塩 私は成年後見を何人かやっているんですけど、今、グループホームに入っている障害のある人の後見人をやっています。その人のお母さんに「お子さんを取られたみたいで寂しくな

いですか」って言うたら「こんな将来が待っているなんて思わなかった。一人で生きて暮らしているなんて、すごくうれしい」っておっしゃってました。

どんなに障害があってもその人なりの自立の道を作ってあげないといけないですよ。

### みんな同じ、知ることが大事

—何だか、知的障害に偏った感じになりましたが…。

長塩 身体障害でも、精神障害でもみんな同じですよ。

私は外国の人のホームステイをボランティアでやったことがあるんですけど、それですごく感じたことは、なにはああだ、なに人はこうだなんて言われてそう思っていたんですけど、接してみたら、なに人もみな同じじゃないかと思ってる…。

家族もみんなそう思ってるね。だから、みんな知らないだけなんですよ。お互いに知って、大事じゃないですか。

## 社会福祉士事務所ろんぐの概要

高齢、障害、外国籍などの分野に関わらず、地域で困っている方のソーシャルワーカーです。公的な機関につながらない、どこに相談したらよいかわからない等、困っている方に寄り添い、地域で安心してらせるよう支援いたします。

### 主な事業：

- 福祉相談事業・自立支援専門相談員等埼玉県から県福祉士会への受託事業従事
- 大学非常勤講師・障害者総合支援法利用認定区分審査員・成年後見人受任
- 福島から埼玉県に避難している方への支援
- 埼玉県社会福祉士会活動

### インタビューを終えて

優しくって、明るくて、パワフルで、繊密で、熱い人。お歳はと伺ったとき、ちょっとはにかみながら「ご想像に任せます」するりとかわされました。

「社会福祉事務所って、何人か人がいて…」とお聞きしたら「いえいえ、自宅でひとりやってますよ」と明るく笑ってこれもかわされました。

「相談料、いただきますよね」「一回五千円って設定しているんですが、初回はいただいていますん」

今は三・一の被災者支援を重点的にやっていると言うことでした。

# 病棟をグループホームに!!

厚生労働省の今後の方向性に抗議して、精神障害当事者や家族が、6月26日日比谷音楽堂で抗議の集会を開きました

## 同じ病棟で上の階に移ったら退院ですか

さいたま市精神障害者家族会連絡会  
会長 飯塚 壽美

7月1日厚労省は「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策の今後の方向性」を示しました。その中の病院の構造改革として、不必要となる建物設備や敷地等の病院資源を、地域移行した精神障害者が地域生活を維持し継続するために活用すること、また病院資源をグループホームとして活用するために一定の条件付けを行って認める、としています。

ここさいたま市でも十年間、長期入院者の退院促進事業が保健所を中心に取り組まれ、目標の半分だけ達成した

## この日、日比谷音楽堂に集った人は全国から三二〇〇人

ところです。アンケートの結果、進まない第一の理由に本人の退院意欲がないこと、第二に家族が受入れを拒否することが判明しました。

発症初期の最悪期に、判断能力を失った本人を家族が保護の意味で入院治療につなげる実態があります。支援がない中で大混乱の処置をした家族は心の傷を負ったままに置かれ、戻される事には拒否する場合があります。日本の精神科医療は、家族任せと、

民間精神科病院に丸投げをして、隔離策をとってきました。退院促進後の病院施設や病棟が不要となることに、国は責任を感じているようです。

しかし、同じ病棟で上の階に移動したら退院したとする考えは、何というご都合主義でしょうか？家族会では、断固今回の策には反対します。権利条約の批准をした日本、ノーマライゼーション条約を制定したさいたま市では、地域の希望する場所です、いろいろな支援を受けながら、精神障害者が自立して暮らすことを保障されるべきです。他の障害者団体の応援も得て、今回の問題にしっかりと向き合い続けたいと思います。

## 患者の人生を丸抱えしないで

さいたま市精神障害者当事者会・ウィズ 竹内 政治

今、私は活動の最前線から離れています。なので、病棟転換型施策の最新情報は実は詳しくありません。ざっくりと概要を説明することは可能です。これは精神科の社会的入院の問題が一向に改善されない国の焦りと、病院を存続させたい精神病院協会の間でいつの間にか出来上がった方針です。病棟を改築したりして、そこをグループ

ホームにすること。簡単に言ってしまうと、それだけです。

退院しても暮らすのは病院の敷地内という現実が待っています。障害者団体は反発していますが、権力のやること。なかなか、難しいようです。

条件として、その病棟の長期入院患者に似非グループホームは使われ、新たに地域から入居者を入れないなど妥協策は取られたようですが、正直に言えば茶番です。イタリアのように閉鎖病棟をなくせない日本に私たちは住んでいます。

社会的入院患者はどこへもいけないのか？病院や施設だけにしか可能性が持てないのか？これは、障害者問題に限らず、人々の無関心の問題だと私は思います。決められる場所にいつも居ないのが当事者。そんなことがまかり通って来ました。根っこは沖縄の基地問題や福島県の原因問題と一緒にではないでしょうか。

確かに精神の病になった人は急性期に精神科病院に頼ります。欠かせない薬もそこからもらいます。だからといって患者の人生を丸抱えしていい精神科病院などあつてはならないものだと思います。

どうか、現状を知ってください。患者にも可能性はあるのです。



# みんなの暮らし

## 手話言語法、言語条例 制定にむけて

さいたま市聴覚障害者協会

平成十八年十二月国連にて、「障害者権利条約」が承認され、ろう者の権利（手話の使用）が認められました。

昨年十月から、「手話言語法の制定を求める意見書」を各自自治体の議会に請願または陳情という方法で提出の取り組みを行い、さいたま市は今年三月に本会議に提出、可決となりました。

手話とは、日本語を音声ではなく手や指、体などの動きや顔の表情を使う独自の語彙や文法体系をもつ言語です。手話を使う者にとって、聞こえる人たちの音声言語と同様に、大切な情報獲得とコミュニケーションの手段として大切に守られてきたものです。

現在は手話通訳派遣制度があります。以前は手話通訳者が居らず、家族にお願いする方がほとんどでした。

市障害福祉課にお願いして今年五月聴覚障害者の二級の方を対象にアンケート調査をした結果が半数以上が家族に通訳をお願いして対応していることが判明しました。

これは大変大きな問題で、手話通訳者がいれば、ろう者自身で自己判断、自己決定ができますが、手話通訳者の

存在、または聴覚障害者に対する理解が足りないために、家族に任せることになってしまっているのです。手話が言語と認められたにも関わらず、社会の中に聴覚障害者に対する理解が浸透していない状態です。

これからも、さいたま市独自の「手話言語条例」の制定を求めて取り組んでいきたいと思えます。この条例が制定されたら、二十四時間緊急の対応や派遣、市職員は手話での会話ができるなどの配備が必要になってくると思います。

聴覚障害者が当たり前の生活ができる社会を目指していきたいと思えます。

会長 川津 雅弘

## 楽しいスポーツレクリ エーションのつどい

NPOさいたま市障害難病団体協議会

平成二十六年七月二十一日、与野本町コミュニティセンターで、楽しいつどいが行われました。

暑い暑い日でしたが、広々としたコミュニティの大ホールに、子供たちが続々と集まってきました。もちろんその子たちの、お父さんもお母さんも。

来賓の方たちも、用意したいですが足りなくなるくらいいっぱいでした。開会セレモニーは、みんなであらう



み「南の島のハメハメハ」

来賓の方々は余り多すぎて、偉い人も偉くない人も名前を言われて「おめでとうございます」だけ。

それにしても、障がいのある子も混ざって、こんなにたくさんの子供に囲まれると、何だかうれしくて、わくわくしてしまいました。

休憩をはさんで、スポーツ道具の準備をして団体競技ゲーム。

大玉送りの紅白玉入れも、バケツにポンも、小さい子も大きい子も、障がいのある子もいない子も、ゴチャゴチャになって汗をかいていました。

子供がたくさん居るのっていいなって心の底から思いました。

会長 宮部 幸子

障がいがあるとなかろうと、子供の存在は大人のエネルギーのもと。大事に育てましょう。来年もがんばってくださいね。

浅輪 田鶴子

## 初めての関ブロ大会 主催を目ざして

さいたま手をつなぐ育成会

全日本手をつなぐ育成会は、今年度より「全国手をつなぐ育成会連合会」と名称が変更になりました。

組織の名称は変わりましたが、各育成会の絆を繋ぐ四十九回目の「手をつなぐ育成会関東甲信越ブロック大会」が、平成二十七年九月にさいたま市育成会主催で開催されます。

関東甲信越ブロックは、一都九県四政令指定都市で構成され、毎年持ち回りで大会が開催されています。

さいたま市開催の基本構想としては、一日開催とし、会員の知りたい情報を分かりやすく伝える大会にしたいと考えています。また、会員の負担を軽減し、効率よく運営するために、主要業務を旅行会社に委託しました。

これまでの大会を土台にして、さいたま市の良さをアピールできる大会にしたいと話し合いの真っ最中です。



泉 友梨さん

泉 友梨さん

泉 友梨さん

泉 友梨さん

泉 友梨さん

泉 友梨さん

泉 友梨さん

泉 友梨さん

泉 友梨さん

泉 友梨さん

泉 友梨さん

「行こうね」
大好きな施設に通う朝、声を掛ける
と、ニコリ笑顔を返してくれます。
OKのサインです。
娘が突然高熱を出し激しい痙攣を起
こしたのは一才四カ月の時でした。
インフルエンザによる急性脳症：
懸命な治療を受け、九死に一生を得
ることができましたが、後遺症は余り
に重く、身体を動かすことも言葉も表
情も失くしてしまいました。
スクスク育っていた娘の僅か数日の
出来事が残った、身体・知的の障がい
に呆然とし、長い失意の日々が続きま

した。
それでも何があってもどんな時でも
道があり場所があり、助けてくれる人
がいました。
さいたま市総合療育センターひまわ
り学園での早期療育、母子通園。たく
さんの仲間。笑顔を取り戻した娘の姿
に希望が持て、前を向けるようになり
ました。
市立養護学校では、人間愛に満ち溢
れた熱心な先生方にたくさん出会いま
した。言葉はなくても目で、表情で、
人と関わる喜びを表現できるようにな
ったのは、心からの支援による証しと
深く感謝しています。
現在娘は二十三才、北区土呂駅近く
の社会福祉法人いーはとーぶに通所し
ています。
いーはとーぶは「障がい者が地域社
会とふれあい各人の個性を尊重し、人
間らしい豊かな生活を築くこと」を理
念にしています。地域の
自治会に入り、土呂町の
運動会や区民まつり、文
化祭りにも毎年参加して
います。
平成十八年からは、「つ
なごうパレード」を続け
ています。
利用者とその友人や家
族、ボランティア、職員

が思い思いに仮装し、チンドン屋さん
を先頭に土呂町の街中を練り歩きます。
言葉や笑顔、アクション、プラカード
でメッセージを送ると、列に加わって
くれる人、家から出て来てくれる人、
窓から身を乗り出して手を振ってくれ
る人：
毎年続けることで、土呂のまちが優
しくなっていくことが実感できるイベ
ントです。
障がい重い人も、共に地域で普通
に生きていきたい。どんな人もかけが
えのない大切なひとり。
娘のメッセージです。
今日も「行こうね」でニコリ笑い、
どんなに障がい重くても、何かでき
る喜びを見つけて、外に出ていく娘を
精いっぱい応援したいと思っています。

# 娘からの メッセージ

さいたま市肢体不自由児・者  
父母の会  
泉 千恵子



地域の人たちと「つなごうパレード」

## 編集後記

26年度の障害者週間市民のつどいの準備が始まりました。

基調講演は Watanabeさんという方で東大卒の心理カウンセラーであります。また、社交ダンスの振付師でもあり、ウリナリ(日本テレビ)にも出演、Shall we ダンス?の振り付け等、輝かしい過去がありながら、たくさんの苦勞を体験し、うつ病との戦い等を皆さんに講演をしてもらう予定です。

今年は障害者交流センターで開催されます。会場の使用の仕方などで一部問題がありますが、当事者・一般の方々がたくさん来ていただきたいと願っています。今年立教大学の学生さんの協力もあるようです。実行委員の皆さんよろしくお願ひします。(M)

さいたま市障害者協議会  
会報あ・うん第20号  
発行 さいたま市障害者協議会  
会長 浅輪 田鶴子  
編集 さいたま市障害者協議会広報委員会  
〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-213-1  
大宮ふれあい福祉センター 4階  
TEL 048-653-7271  
FAX 048-653-7341  
http://www.saitama-planet.com/  
e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp  
この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。